



国立病院機構下志津病院
病院ニュース

し も し づ
下志津

20号

令和2年8月
 発行

**4月から下志津病院で働きはじめたフレッシュマンです！
 患者さま一人ひとりを大切にする医療を目指します**



Index

病院長就任のごあいさつ…………… 2
 地域医療連携室が果たしている役割…………… 5
 みなさん、お薬を正しく飲めていますか？… 6
 職場紹介…………… 7
 感染防止対策室の活動紹介…………… 9



病院長就任のごあいさつ

院長 重田 みどり



皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。2020年7月1日付けで、国立病院機構下志津病院の院長を拝命いたしました。前任地の国立病院機構千葉医療センターでは、13年間小児科医として診療を行う一方で、研修医や専攻医の教育、さらに病院全体の安全、感染、倫理などに関する研修の充実、そして診療部全体に関わり医療の質の向上に努めてまいりました。2020年4月に下志津病院に異動し、多くの方からご指導を頂きながら7月を迎え、当院を運営する責任の重さに身の引き締まる思いであります。

下志津病院は戦後、陸軍病院から結核療養所、そして結核患者の減少に伴い、筋ジストロフィー、重症心身障害医療、小児の気管支喘息の施設療養へ移行し、さらに、地域の要望に応じて一般内科、外科、整形外科などの開設、国立病院としてはじめてリウマチ科を標榜、小児アレルギー疾患、小児救急、発達障害への取り組みと時代の変遷とともに当院の診療内容も変化してまいりました。また、この6年間にしましては、石毛尚起名誉院長の強力なリーダーシップのもと、高齢化の進む当地域の医療充実のために、地域包括ケア病棟の開棟、四街道市在宅医療介護連携支援センターの開設が行われました。地域包括ケア病棟では、在宅復帰に向けた診療、看護、リハビリテーションが行われています。誰もが住み慣れた街でいきいきと暮らせるように、四街道市や地域医師会の先生方と連携をとりながら、今後も地域から望まれる医療を推進していきたいと思っております。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、受診を控える方が増加し、感染防御にかかる費用増もあり、医療機関の経営は大変厳しい状況にあります。しかし、そのような困難な状況にあっても、職員は新型コロナウイルス感染症を防ぐために努力を惜しまず、日々感染防止に取り組んでおります。患者さま、ご家族さまには、ご不便をおかけすることがございますが、引き続き感染の危険性に最大限の注意を払いながら、外来診療、入院診療を続けてまいりますので、ご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

当院の理念にありますように、患者さま一人ひとりを大切にする医療の提供をめざし、職員全員で努力してまいります。今後とも引き続き温かいご支援、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



新任あいさつ

統括診療部長 丹野 裕和



このたび令和2年8月1日付で統括診療部長として着任しました、本職は脳神経外科の丹野裕和と申します。

前勤務地は東金の東千葉メディカルセンターですが、平成6年から29年までの24年間は同じ国立病院機構の千葉医療センターに勤務しておりました。脳神経外科医長、救急部長として前病院長の石毛先生のご指導のもと脳卒中などの急性期疾患に携わってきました。その後東千葉医療センターに異動し脳神経外科を立ち上げました。長年ライフワークのようにしてきた脳卒中や頭部外傷などの急性期治療ですが、無事に社会復帰できる人は限られます。外科医として急性期の治療に介入すればするほど特に高齢者では後遺症を残すというジレンマもあります。今後ますますの高齢化社会で、このような患者に対して回復期医療、慢性期医療、介護在宅医療の重要性が高まります。下志津病院がこのような治療の中心を担う使命があるのかもしれませんが。

まずは、微力ですが急性期脳血管障害、外傷を中心に四街道の地域医療に貢献できること、近隣の急性期病院との連携を図り慢性期でも入院患者を増やし病院の経営に貢献できることの2つが目標です。地域医療部長の深谷先生は学生時代5年間楯円形のボールを追った one team です。よろしくお願いいたします。

新任あいさつ

看護部長 田村 伸



令和2年4月1日付で、さいがた医療センターより配置換えで着任いたしました、看護部長の田村伸（たむら しん）と申します。当院では、平成28年4月から平成30年3月まで副看護部長としてお世話になりました。今回2回目の勤務なので顔見知りの方々も多く心強く毎日勤務させて頂いております。

昨年度末から猛威を振るっています新型コロナウイルスのため、患者さま並びご家族の皆様、職員の皆様にも不自由をおかけしております。今は、この国難を乗り越えるため皆様と力を合わせて感染防止に取り組んでいきたいと思っております。ご理解とご協力をお願い致します。

当院では、慢性期疾患を持った患者さまが疾患と向き合いながら治療や療養に臨んでおります。少しでもお役に立てるように、私の経験で得た知識や技術をスタッフに伝え、看護を実践していただけることを望んでおります。今後ともよろしくお願いいたします。

退任にあたって

名誉院長 石毛 尚起



私は 2020 年 6 月 30 日をもちまして、下志津病院を退職いたしました。下志津病院在職は 6 年で、国立病院での勤続は旧習志野病院での 3 年、千葉医療センターでの 24 年 3 か月を合わせて、33 年 3 か月でした。

思い返しますと、6 年前の 2 月末、国立病院機構から、7 月 1 日より下志津病院へ院長で異動という内々示がありました。その 1 か月前にはなかった話でしたので、驚きでした。

私の実家は病院から近く、長く四街道に住んでいましたので、病院の周りは知っていました。昭和 30 年代後半、小学生の時、平屋の結核病棟に外階段を 3 段ほど登って入った記憶があります。

2015 年 7 月、急性期治療のあと在宅へ移行するまでのリハビリなどを行うための地域包括ケア病棟を立ち上げました。その後、2017 年 5 月に四街道市より在宅医療介護連携支援センターの委託を受け、開設しました。2018 年 4 月には四街道市からの要請で病児・病後児保育を開始いたしました。2014 年 11 月には筋ジストロフィー病棟開設 50 周年の記念式典、2017 年 2 月には下志津病院開設 70 周年、同年 6 月には重症心身障害病棟開設 50 周年と、病院の長い歴史をふりかえる機会が続きました。某民間株式会社様によるプラネタリウム、五嶋みどりさん率いるミュージックシェアリング様のデリバリーコンサートなど、当院の特徴である医療ボランティアにもめぐまれ、一生の思い出を皆と共有できました。

2019 年 1 月には、リウマチ膠原病センターに加えて、新たにリウマチ関節外科センター・小児アレルギー膠原病センター・療育発達支援センター・神経筋疾患センターの 4 センターを新設しました。最後は新型コロナウイルスに脅かされていますが、院内外の皆様のご指導ご協力のおかげで退任の日を迎えられ、安堵しています。

2020 年 7 月からは重田みどり先生が第 11 代の院長として引き継ぎます。当院初の女性院長というだけでなく、全国国立病院が昭和 20 年に創立されて以来、おそらく初の女性国立病院長となります。新たな出発ですが、ひきつづき皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。6 年間、どうもありがとうございました。

定年を迎えて

リウマチ膠原病センター長 杉山 隆夫



この春、定年を迎えました。末石名誉院長が内科医長であった頃に千葉大からお手伝いと派遣され、はや 30 年です。ここまで長くとは夢にも考えていませんでしたが、リウマチ科・リウマチ膠原病センターと名を変え下志津病院の一つの柱を作れたと感慨深いものがあります。今後は杉本部長を中心にさらなる発展を！と祈っています。患者さんからは「まだやめるな」「最後まで面倒をみてね」「先に死んじゃだめ」等々の、脅迫？いや励ましの言葉をいただき、さらに石毛前院長から「リウマチ膠原病センター長（実は単なるシニア医師）を続けていいよ」っていただき、今後もリウマチ膠原病患者さんの診療を続けますのでよろしくお願いいたします。

地域医療連携室が果たしている役割

地域医療連携係長 嵯峨 美和

地域医療連携室には、室長の脳神経外科の深谷医師を筆頭に室長補佐の神経内科三方医師、私を含めた看護師4名、医療ソーシャルワーカー5名と事務員2名が配置され、当院と地域の患者さん、ご家族、他医療機関や介護事業所などの橋渡し役として病院中を歩きまわっています。今回は、どのような役割をもっているかをご紹介します。

まず、当院に入院している患者さんで在宅へ戻る際、地域関連職種、たとえばケアマネージャーさん、地域包括支援センターの方々、訪問看護師さんなどと協働し、何らかの支援が必要であれば、患者・ご家族に寄り添って地域に戻る際に必要なお手伝いをします。場合によっては介護保険の申請などのお手伝いや介護調査時の立ち合いも行います。当院から他の病院へ転院される必要がある場合も、ご不安なく転院できるようサポートいたします。

外来からのご相談も平日の日中お受けしています。社会的な制度の問題、症状からくる受診の問題など、患者サポート窓口を担当者がついておりますのでお声をおかけください。また、地域医療連携室内には、市からの委託を受けて四街道市在宅医療・介護連携支援センターを設置しております。定期的に医療と介護の研修会や市民の方々に役に立つ保健講座もご提供しております。

他の病院から当院への転院相談も窓口となっています。当院には、地域包括ケア病棟があり長期入院治療などで筋力が弱くなった方など対象にリハビリテーションをして、在宅の生活へ戻っていただけるよう支援する役割の病棟があります。

専門的ではありますが、当院での脳ドックの予約、地域の医院からのMRI、CT予約、骨密度測定の受付なども地域医療連携室で行っています。

これからも患者さん、ご家族、地域で生活されている方々、地域の施設、行政、医療機関の方々と連携をとりながら、安心を提供していきたいと思いいまも病院中を歩きまわります。



みなさん、お薬を正しく飲めていますか？

薬剤部

ご自身のお飲みになっているお薬の袋をよく見てください。

飲み薬ならばその袋に、いつ、どのタイミング（食前や食後など）で、どのくらいの量を飲むべきなのか書いてあります。

お薬は決められたタイミングで飲まないとお薬の効果が弱くなってしまうことや、効果が強くなって副作用が出やすくなってしまうことがあります。このようなことが起こらないようにするためには正しく薬を飲むことが大切です。今回はお薬を飲むタイミングについて説明したいと思います。

<飲むタイミング>



起床時	⇒ 朝起きてすぐ
食前	⇒ 食事をする前 30 分
食直前	⇒ 食事をするすぐ前（5 分程度前）
食直後	⇒ 食事をしたすぐ後（5 分程度後）
食後	⇒ 食事をした後 30 分
食間	⇒ 食事をした後 2 時間
就寝前	⇒ ベッドに入る前 30 分
時間ごと	⇒ 決められた時間（〇〇時間おきや〇〇時になど）
頓服	⇒ 必要な時（痛いときや熱があるときなど）



<お薬の飲み忘れに気付いたら>

- ・次の服用までに時間があるときは、気づいたらすぐ飲んでください。
- ・次飲むまでに時間がないときは、忘れた1回分を飛ばし、次から飲んでください。

※ 2 回分をまとめて飲まないでください。

※ 糖尿病薬など薬によっては対応が変わる場合がありますので、ご不明の場合は、遠慮なく主治医や薬剤師などに相談してください。

職場紹介

栄養管理室長 平山 千鶴子

栄養管理室です。こんにちは！

栄養管理室では、入院患者様へ食事を提供したり、食事に関わる困りごと（栄養不足や肥満、食欲不振等々）に対処したり、入院・外来の患者様に食事の相談をしています。管理栄養士という資格を持って業務に当たっています。長期間の入院が必要な方も多いので、食べてハッピー、元気になる様に行事食や季節感の持てる食事を心がけています。

行事食の紹介です。

敬老の日



丑の日



制限のない常食をはじめ、エネルギー調整食、噛みやすく飲み込みやすい食事等、病状にあった食事ができるように準備をしています。また、常食やエネルギー調整食では、健康食としての説明、小児科では、アレルギー食の食事相談を行っていますので、退院時や外来受診の際に、興味のある方は職員へ声をかけてください。

栄養管理室 職員



職場紹介

11 病棟看護師長 國分 桂子

11 病棟は 2 階にあり、窓からは四季折々景色を楽しめる、明るくきれいな重症心身障害者病棟です。現在、長期入院患者の定員を 59 名とし、短期入所利用者の受け入れも行っていきます。

患者さんは様々な基礎疾患を持ち抵抗力が弱く、多くの合併症を有しています。また、子供から成人まで幅広い年齢層の患者さんが入院しています。私たち看護師は障害のある患者さんの安全を守りつつ、生活の場となっている病棟で安心して過ごせるよう、医療ケアの実施を含む日常生活全般の看護を行っています。特に食事介助は個々の摂食・嚥下状況に応じた食事内容、食器、食具になっているかを確認し訓練を行ない、体位など食事環境を整え、たくさん召し上がっていただけるよう援助しています。お口から摂取出来ない方には、特に口腔内の清潔に努め、経管栄養、胃ろう栄養という方法で栄養管理をサポートしています。

また、11 病棟では呼吸ケアに力を入れています。医師の指示のもと I P V（肺内パーカッション）や R T X（体外式陽陰圧人工呼吸器）という痰を出しやすくする機器を使用し、複数の看護師が協力して患者さんを腹臥位にするなどの体位ドレナージを行い、痰の排泄を促し肺炎の予防に努めています。人工呼吸器を装着している方も含め、なるべく日中は車椅子に乗車していただき、療育活動、散歩などを楽しんでいただいています。

そして、週 2 回はエレベートバスという入浴機械を使い、気持ちよくさっぱりしていただけるよう入浴介助を実施しています。

病棟のプレイルームには四季折々の装飾が施され、工夫を凝らした療育活動、各種リハビリテーションの専門家による支援、四街道特別支援学校への登校や床上学習、多くのボランティアの方々の支援、ご家族の面会と、にぎやかで活気あふれる毎日です。患者さんのちょっとした表情や様子の違いから、体調の変化を見逃さず、患者さん個々にあった看護が提供できるよう、他職種の協力を得ながら「患者さんの命を輝かせる病棟！」を合言葉に頑張っていきます。



感染防止対策室の活動紹介

～ いろいろ作成しています！～

感染防止対策室は「感染症を引き起こす病原微生物が病院内で広まることを防ぐ」ために活動しています。しかし実際に院内感染を防止するためには、病院内の全職員に加え、病院にいらした患者さまや付き添いの方も含めて、病院内にいらっしゃる皆さん全員にご協力を頂く必要があります。

このため私たち感染防止対策室では、知っておいて頂きたいこと、ご協力をお願いしたいことなどをわかりやすく伝えるために、各種注意喚起ポスターや、患者さま向けのパンフレット等も作成しています。最近私たちが作成したものを、ここにいくつかご紹介いたします。

「手指衛生」のパンフレットはお持ち帰り頂けます。「手指衛生」について、言葉の意味、なぜ、いつ実施するのか、正しい手指消毒の方法等についてわかりやすく解説しています。各外来窓口や、各病棟の面会カード記入エリアにおいてありますので、是非お手にとってじっくりご覧ください。

各種ポスター

手指の消毒をお願いいたします。

足もとのペダルを踏むと液が出ます

正しい手指消毒手順

1. 手のひらと手のひら
2. 手のひらと手の背
3. 手のひらと手の指
4. 手のひらと手の甲
5. 手のひらと手の指
6. 手のひらと手の甲
7. 手のひらと手の指
8. 手のひらと手の甲

2009年WHO「手指衛生のための多角的戦略」より
医療従事者が手指衛生を行うべき「5つの瞬間」

医療従事者は、上の「5つの瞬間」で手指衛生を実施する必要があります。これは2009年にWHO（世界保健機関）の「手指衛生改善のための多角的戦略」によって定められました。

私たち下志津病院では、2014年からこの多角的戦略に基づき、全職員が手指衛生の改善に取り組みしています。職種や役割にかかわらず、職員は「5つの瞬間」では手指を消毒または洗うよう心がけています。

お互いを 守るために マスクを着用 2mの距離

Social Distance 2m

こまめな 手洗い または 手指消毒 も忘れずに

令和2年4月21日 下志津病院

パンフレット「手指衛生」について

私たちはいつも手をきれいに！と心がけています。

手をきれいにするために、15秒から30秒ほど、お待たせしていただく必要があるかもしれません。また、患者さまに触れたあと、目の前で手を消毒したりする場面があるかもしれません。これらはいずれも、全ての患者さまに清潔で安心な医療を受けて頂くために行っています。

- 1) 患者さまに触れる前
どこかでついてしまった有害な病原微生物（細菌やウイルス）を患者さまにつけないために、患者さまに直接手を触れる前に、手を消毒または手洗いをしています。
- 2) 採血やゲージ交換などの処置の前
お部屋に入る時に手指衛生を行っていても、先に触ることをする手に菌などがつくことがあります。これが血管や臓器等から入ることを防ぐため、処置の前改めて手を消毒します。
- 3) オムツ交換などの後
オムツの交換など、菌などを多量に含む体壁に触れる可能性があるケアの際は、手袋を外した直後に手を消毒または手洗いをしています。こうすることで手に付いた菌をその場で無力化します。
- 4) 患者さまに触れた後
何らかの病原微生物に感染して入院された患者さまも別院いらっしゃると思います。気付かずに病原微生物をお持ちの場合もあります。全ての患者さまに触れた後に、手指衛生を行います。
- 5) 患者さまの回り回りに触れた後
患者さまが持つものなどは、ベッドやテーブルなど、患者さまの身の回り環境でも生息していることがあります。直接患者さまに触れなくてもこれらに触れた後は手指衛生を行います。

手指衛生をしても、手についた分の菌を完全になくすることはできません。しかしこれらのタイミングで手指衛生を行うことで、菌の数が患者さまから体へと入るのを抑え、よりリスクを低く抑え下げることもできます。もし私たちが手指衛生をおこなっている際は「手をきれいにしてください」と、ご協力をよろしくお願い致します。

「手指衛生」という言葉を ご存じですか？

「手指衛生」とは「手をきれいに」することですが、病院の中の「手指衛生」にはいくつか重要な意味があります。

- 1) 患者さまを危険な病原体から守る
- 2) 病院の職員や院内の環境を介して病原体を広めてしまうことを防ぐ

私たち、下志津病院の職員は、常に適切なタイミングで手指衛生を実施することを心がけています。このパンフレットでは、いつ、なぜ、私たちが手指衛生を行うのかご説明します。

下志津病院のロゴマーク

🌿 : 優しく包み込む両手
👤 : 人 = 患者さま
🏥 : Shimoshizu の 漢文字

患者さまご自身も手指衛生を

正しい手指消毒手順

病院には菌やウイルスなどに感染して具合が悪い患者さまが多くいらっしゃいます。何らかの感染が疑われる患者さまはご自身から他へと広めないために、また感染の症状のない患者さまはご自身を感染から守るため、こまめな手洗いや手指消毒を心がけていただく必要があります。「手指衛生」はご自分のためだけでなく、周りの全ての人の健康につながることであります。

2020年11月 感染防止対策室 作成

「手指衛生」について

下志津病院にいらした患者さまへ

国立病院機構 下志津病院

受付時間
8:30～11:00

外来診療担当表

独立行政法人 国立病院機構 下志津病院
令和2年8月1日～

区分科	月	火	水	木	金
内科 一般内科(毎日) リウマチ科(毎日) 消化器内科(月・水) ○一般内科 初診担当 ●リウマチ科 初診担当	●杉本 ○古川 ○伊藤 ○大野(PM)	●杉山 ○篠崎 ○古川 ○末石 ○横山(AM) ○山形(PM)	●吉田(隔週) ○古川 ○富澤 ○伊藤 ○杉山	●杉山 ○杉本 ○杉浦 ●眞山(快)	●杉山 ○杉本 ●○交代制 ●乗本(綾)(AM)
アレルギー科(成人) (喘息)					岩本(AM)
睡眠時無呼吸外来※			梅岡(PM)(第2・4のみ)		
禁煙外来※			鈴木(修)(15:00～16:00)		
脳神経外科	丹野	石毛	深谷	丹野	深谷
神経内科		本吉/三方	本吉		本吉/三方
小児神経科※	大森(再来のみ)		石原	大村	
小児科※	一般 喘息・アレルギー 腎臓・肥満・代謝 眞山(義) 渡辺 中村(文) 鈴木(修)(AM) 交代制 (女子医大)	一般 喘息・アレルギー 富板(予約のみ) 重田 仲村 佐藤(一) 鈴木(由)(PM)	一般 喘息・アレルギー 代謝 山本(重) 鈴木(修)(AM) 鈴木(由)(AM) 天野 玉地	一般 喘息・アレルギー 腎臓・肥満 富板(予約のみ) 渡辺 中村(文) 佐藤(一) 交代制 (女子医大)	一般 喘息・アレルギー 腎臓・肥満 石原 中村(文) 鈴木(修) 須藤
		小児腎臓病 松村(PM) (第1のみ・予約のみ)		小児膠原病 富板(PM) (初診予約のみ)	
外科	白井	一木	一木	長谷川(留) (予約患者のみ) 白井	白井 (予約患者のみ) 長谷川(留)
整形外科	山玉 中井 佐藤(崇) 江口	鈴木(宗) 玉井 高野	交代制 (9:30から診察開始)	(小林) 高野 山中	鈴木(宗) 高野 江口
リハビリテーション科	三方(指定する日)				

- ※ 小児神経科の初診の方
 - ※ 小児科の食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息の紹介状をお持ちの方
 - ※ 小児膠原病(初診予約のみ)は毎週木曜日14:00～15:30に行います。
 - ※ 睡眠時無呼吸外来は、1日5名までの完全予約制ですので地域医療連携室へお問合せ下さい。
 - ※ 禁煙外来は完全予約制ですので地域医療連携室へお問合せ下さい。
 - ・ 精神科・皮膚科・歯科・眼科は、主として入院患者を診察しています。
- 完全予約制ですので地域医療連携室へお問合せ下さい。

四街道市 健診は第4木曜日14:00から行います。健診当日は13:15～13:45までに受付をお済ませください。
乳児健診 予約のお問合せは企画課(医事)窓口と電話にて受付しています。予約受付は、平日13:30～16:00までです。

■JR四街道駅
北口下車 徒歩8分
JR 総武本線東京駅(千葉経由)から四街道駅まで約50分

■京成臼井駅
京成電鉄京成臼井駅から千葉グリーンバス
「四街道駅行き」に乗車(約25分)「消防署前」下車、
徒歩1分

●東関東自動車道
「四街道インター」から約5分(3Km)



ホームページは
こちらへ

第20号
令和2年8月発行

発行責任者 重田みどり
編集委員長 山本 重則